

【小中学校への伝承について】

答 本町においては小学校4年生になると、「鬼北のくらし」という社会科の副読本を配布し、町内の生活や暮らし、産業文化、また町内に伝わる伝統行事等についてわかりやすく、詳しく紹介し、社会の学習に生かしている。

また、総合的な学習の時間を利用して、各地域のお年寄りと交流会などを持ち、昔の遊び、鬼北地方に伝わる数多くの文化的伝承行事や農作業伝承の話を聞かせていただいたり、実技指導などを受けている。

町内における美談・伝承についての紹介は、広見町誌・日吉村誌に詳しく数多く掲載されているが、主に町内に伝わる鹿踊り、泉貨紙、鬼北文楽など、町内各地域に伝わる数多くの行事伝承については、地域の皆様方からそれぞれの立場でご教示いただいている。本当に感謝している。

「文化や伝承」は長時間かけて体得し、代々伝えていくものや、自然に身につけていくものなど、様々なものがある。

今すぐ成果の出るものではないが、今後も引き続き先人の足跡の伝承を含め、地域文化を後世に伝えていく活動を地道に続けていくことができるような環境づくりを配慮していきたいと考えている。

【高齢者の熱中症対応について】

【同居高齢者数など、行政側また、各組での把握はできているか】

答 平成22年9月1日現在、同居高齢者といわれる65歳以上で1人世帯の方は532人である。地区別では、近永が145人、好藤が66人、愛治が64人、三島が87人、泉が85人、日吉が85人という状況であり、全人口比率でいうと4.5%、全世帯比率では10.3%になる。

把握方法については、介護保険の認定調査や民生児童委員からの相談、介護サービスを利用していない方、認知症のある方、配偶者が死亡して独居になった方などに対しての家庭訪問や相談等の情報を得て、高齢者台帳のデータを常に更新して把握に努めているところである。

【全国生活と健康を守る会などがエアコンの設置、修理等低所得者への補助制度の実施を国に求めたことに対して町の対応について】

答 現時点ではエアコン設置に対する経費、修理費用や電気料への補助制度を町単独として導入する考えはもっていない。

なお、低所得者や高齢者、障害者の生活を経済的に支える制度として「生活福祉資金貸付制度」がある。収入の減少や失業等により、生活に困窮している人や、低所得者であって日常生活の維持が困難となっている人に対して支援資金

の貸付を行うものである。

社会福祉協議会が窓口となって対応しているので、この制度を利用していたくことで経済的自立や社会参加を進め、安定した生活を目標していただくようこの制度を勧めていきたいと考えている。

【家畜農家への対応について】

問 口蹄疫対応として町が取った対応について

答 町では、県下の市町に先駆けて本年5月に消毒液、7月には消石灰を配布するとともに、県および関係機関団体と連携し口蹄疫発生予防のチラシを配布するなど、口蹄疫の進入防止に努めた。

【畜産経営に対する本町がとってきた対応と今後の力点について】

答 本町においては、畜産農家に対し優良種豚の導入、優良和牛の育成、酪農ヘルパー制度の活用などの支援を行っており、今後も畜産経営の安定に向けた対策に取り組んでいきたいと考えている。

【不登校・虐待問題について】

問 各校の登校拒否、不登校の実態について

答 本町においては、登校拒否に該当する児童生徒はいない。不登校に該当する児童生徒は、愛媛県教育委員会に報告している長期欠席に関する報告書では、病気で外での不登校により30日以上欠席

した児童生徒は、町内で1名である。

【虐待防止のための、情報入手網の構築について】

答 当町においては、保健師等を中心に、学校・保育所および民生児童委員、また、南予児童相談所等関係機関で、定期的に「実務者会議」を開催し、地域の実態把握と情報交換により、虐待の発生防止と早期発見に努めている。また、虐待または虐待のおそれのある事案が発生した場合には、その都度「ケース会議」を開催し、より深く個別の事案について検討し、早期対応に努めているところである。

◆稲垣 伸雄 議員

【町民目線とスピード感について】

問 職員への対応等について

答 「挨拶ができない」、また「迅速な対応ができない」職員がいることは、誠に残念なことだが、これは、職員個々の自覚と資質が欠如していることによるものであると考えている。これまでも、事あるごとに、個人的な指導も含め、挨拶の励行、住民への対応、迅速な事務処理、町行事への参加、公務員のモラルなど、職員として心がけるべきこと等について指導しているところであるが、今後とも、行政と住民の方々との信頼関係を築くために、職員の資質向上に引き続き力を入れていきたいと考え